

飯島賢二の『恐縮ですが・・・一言コラム』

第 137 回 何とも虚しい、確定申告紙上生中継

2006.2.18

今年も確定申告（所得税、消費税等）の時期が来た。全国の税務署、商工会等で無料納税相談会が行われているから、何となくご存知のはず。毎年のことだが、我々税理士会もこの期間中ほぼ 3 回程度、ボランティアで相談員を務めることになっている。

今年の確定申告から、65 歳以上の高齢者にとって、大変な増税になっている。今まで 65 歳以上ならほぼ無条件（一部制限あり）で 50 万円の「老年者控除」があったが、それが廃止された。さらに公的年金等の控除額の計算式が変わり、その結果所得税や住民税がアップする現象が出ている。財務省の試算によると、65 歳以上の高齢者は 4 人に 1 人が、新たに課税されるか増税になると予測されている。高齢者にとって、何とも辛い確定申告が始まっている。

今年も無料納税相談会場から、ちょっと、紙上生中継。

明らかに 65 歳以上と思われるおばあちゃん、両手にいっぱい、持ちきれないほどの医療費の領収書を持参、「医療費控除の還付の申告をやってくれ」と相談者席についた。

「おばあちゃん、大変でしたね、ところで去年の収入は、どうでしたか？」

「収入は年金がちょっと、後は何もありません」

「年金は源泉もないし、ほかに納税もないようですね。おばあちゃん、残念ですが、還付の対象にはなりませんよ」

「そんなことはないよ、医療費がかかれば、ちゃんと還付してくれるって、テレビで言っていた。できる筈だって。あんた、そんなことも知らないの！」

そう言いつつ、30 分も粘り、捨て台詞を残し帰っていった。何度も、できるだけ優しく説明したつもりだが、おばあちゃんには理解してもらえなかった。

やはり高齢者と思しきおじいちゃん、去年は還付だったが今年は約 3 万円の納税となった。「おじいさん、僕が悪い訳ではないんだが、今年は、納税ですよ」

「去年と何ら変わっていないのに...、しょうがねえなあ」「じゃあ、これで...」と財布からお金を出そうとする。

「いやいやおじいちゃん、ここではお金受け取れないんですよ。」といつつ。納付の方法を教え帰って頂いた。

こんな人のいいおじいちゃんから、僅かな税金を徴収する増税策しかなかった、今年の確定申告。何とも虚しくなってくる。この現場を、日本の偉い方々、是非自ら体験していただきたい。そうすれば、少しは日本も変わるかも...。